

女子
の
話

特別
~ 13
3633
40



特

門 へ 13
號 3633
卷 40

洞房妓談

盤子話叙

あし 盤子野話とよぶもの

あり。古今の奇談 残

載其言 夜話


むくく。ゆき。ゆき。

皇

皇

昭和二十二年六月八日
宮川曼魚氏寄贈

世よよきことあり保くる
 亦ま船ふねふあり。此こゝ船ふねふ手て話わ
 と類いとらるもの也。洞ほら房むら
 妓き妓ぎよーく。オス。ザニス
 の方言りやう言げん那なり。もー世よ
 城しろ本もと屋やの太お八やち如ごとさガ
 ちのロ

是これを聞きて首くびとららる
 やから。手て話わく
 あらを書か肆し乃すなは幸しあ
 たらん乎や
 山東居
 京傳述


黒稲荷
介

人物名目録

馬骨

太悦

いろ男

そら恋

きうざん

ふとけ

ちや屋

ちや屋男

巴一方

茶やとんま

名代新

ちや屋

女けりや

花きぬ

ちや屋

風の戸

月の戸

やりて

繁千話

京傳著

游閑公子。飾冠。劍連車騎。亦為

富貴容也。女郎のこめよえはうま

る。昔も今もいづれか。かの川柳

急よ。色男。儒紳で首を括やうしと

は。その懐と穿つ。なかり。今娼門入

客と。ん。ふ。よ。悉。才。又。英。振。と。急。一。口。よ

美人を喰ひ。徳義は漲るは。よく高世に
はり。類るは通じて。鄧通が富貴。潘
安が容貌も我拙にして。大坂の鳴池や江戸
の訥子よりも。を係り沖と漕ぎ。今このる
本も洋植より。赫赤女さ。がつて志め
教を係るえ。ぼうハ皆。妹妓。雛妓。不鬘。
保兒。贅負の元。の假母まで。よ。おま。り。ら
び。思ひ。めん。が。こ。め。は。縁。歸。る。り。よ。し。て。

素我才はお慈せ。さ。係。り。る。れ。ハ。或。を。令
浪の約束と。る。遠。又。を。知。ぬ。り。も。知。了。教
して。人。は。心。と。え。ら。り。多。く。これ。真
の通客。は。あ。ら。び。通。は。似。て。非。る。者。多。く。
これ。と。未。至。通。とい。川。つ。ら。い。尚。世。世。徒
多。く。交。は。何。屋。と。い。る。ま。て。を。係。り。大
き。なる。女。郎。屋。の。二。階。廊。下。に。交。は。す。て。
何。や。ん。健。る。る。り。あり。お。徳。と。こ。え。て

茶や 正ただ 正ただ コリヤア 懐なつか ちをド 廿二十 書か 新あらた 造つく 菊きく 咲さ

ふんぞうあつちいあふんといひよるぞ
ことくもな漣なみとひぬきうるぞう あいさつまんて
ヤンしやうぐこアこふでござんをあの五ご節せつ
さんとあやめさんと色いろのことのひいづちも
とりの又また知しつてめんをーえん皆もあて
やくまんしころぬどつーが目よ
からぬうちを知らぬ故ゆゑで飛とこ
お節せつさんハ提ちぢのちぢ紫むらささんの客人きやくじん提ちぢの

紫むらささんハころちのちぢ新あらた造つく 花はなで
ござんせんうまよあの雛ひな形がたさんハがハあハへ
よハあハてハまハてハいハひハるハんハをハひハをハげハ色いろの
のちハハハつハちハがハ取とりハづハうハあハやハ免めんさん
よハハハいハもハいハびハるハんハせハびハよハごハこハまハんハも
つハーハぐハわハりハいハうハらハつハしハとハがハのハよハまハこハ
くハもハしハてハごハみハぞハみハ節せつさんハとハあハやハ免めん
さんの客人きやくじんよハもハらハつハてハらハんハーハひ



京傳画



むかし方々して居る也
 ういともりのあいて居る
 ろくもむらりこみさん
 いろやつらて居る
 男とめう吐と
 きんこの甘男
 せけん夜更も七客
 とおよ初のおま
 つらごうやえア

むかし方々して居る也
 ういともりのあいて居る
 ろくもむらりこみさん
 いろやつらて居る
 男とめう吐と
 きんこの甘男
 せけん夜更も七客
 とおよ初のおま
 つらごうやえア

人へんどうちやうくわ トつちなるいんてん

ねつひをねあまきこるん ちやうまがつかうて

氣が遠い ちが

男 子やうま ト 氣も遠ハぬくで

どよまもものり えん

あしうをばり コ

ちぞ ハ

しやうめ ト 氣も遠ハぬくで

ておえん ト

と ト

と ト

の ト

は ト

（男 ト

が ト

お ト

居らんも初らよ出る氣をござんせんが都世（せ）
 よある茶やうよんどころなくつけをいつてこのえ
 そろ茶屋の義（ぎ）取（り）でわうぞおやうといつて
 やらんこの甘虎（かんこ）月（づ）えんとよぶのよぬーの来
 て居らんも今茶（ちや）まがぎつてよびんもものう
 るんばいつらうちきうあくつてももそ佐（さ）の（り）
 知（ち）れて居（い）んも訖（じ）授（じゆ）のこめい隣（りん）へなとと
 せんもうらよくえそ急（いそ）とおをらうーえー

男 のび **琴** こと

まげ花といひの色々男はををれびんと
 かしわけをれをのぎとりのあつてきん

まきみ自らも物（もの）は紋（い）とてきん一（ひと）まめて雲（くも）とらう
 雨（あめ）とらう白（しろ）いらう樹（き）とらう二（ふた）段（だん）いハドやうぶらう一（ひと）あつて
 けしう男（おとこ）とらう契（ちぎ）がめんまきハセうちで居（い）れとんハやくも急（いそ）の
 景（けい）おるねバワきと一（ひと）あつちらうりなうくものあつちらうとて

△ 取（り）の物（もの） **名代（なしろ）** とらう **名代（なしろ）** とらう
 本（もと）と朋（とも）友（とも）は廣（ひろ）言（こと）とをる物（もの）名代（なしろ）ハけつとめてくもそぬのて
 つるものさうとのこいへてあるまはねばれ大（だい）言（こと）情（じやう）あなり

かやうづけ万（まん）のりのこのみ分（ぶん）ハ持（も）つてある一（ひと）まの座（ざ）ちり
 めんの袖（そで）ハハのハ急（いそ）ニツの白（しろ）羽（う）ニまはらもみのりハ
 袷（あ）綿（わた）は急（いそ）のハキヨロハ方（かた）代（しろ）よりけしんはくち一（ひと）まめ
 取（り）つては急（いそ）ハ急（いそ）は急（いそ）ハ急（いそ）ハ急（いそ）ハ急（いそ）ハ急（いそ）
 折（お）こは急（いそ）ハ急（いそ）ハ急（いそ）ハ急（いそ）ハ急（いそ）ハ急（いそ）
 のまげハ急（いそ）ハ急（いそ）ハ急（いそ）ハ急（いそ）ハ急（いそ）ハ急（いそ）

わらうららとあつてあのみまはり **茶** ライ紙物どん
まがきの方とまじやしのねとまじ

く **廻** 二階ハえんなまごうて居るうら下度

どよ化物グかけひまぐでこのでいそくして

るうねくまごお度度とくくねまごこち

（お入レヤウ ト先きて下 **骨** ぶいぬきほごの ト下
お入レヤウ 度度ハれや

サアくくいの **廻** 唯今あるまを拵て糸りま

中 **茶** ほうちん **三** ほうちんのらうま **茶** 交ハけりく
とまむ のまてをこぬる

下度度の方グよくこごりま **三** 度と大列
度と大列

いふど **替** の **種** ぶあの **牝** 袋ハ **何** 部ど **書** ぐ

つとよくる **局** 植おハ **ど** ねも **茶** 研 **堀** の **沙** 録日

どどねも **ね** うちハ **ね** トモウ **三** ワロ云 **祈** るく **廻** 一方

行 **あ** 燭 **巻** とお片 **あ** 盆 **巻** 小指 **子** 子

とひつ **け** 一夜 **お** ある **つ** いて **名** 代 **の** 振 **袖**

物 遠 **身** ら **れ** より **廻** 方 **の** 勅 **使** 之 **夜** 夜

とまび **ー** **う** **バ** 空 **琴** ハ **か** **や** **う** **ぐ** **よ** **ま** **り** **お**

定 **り** の **盆** **中** **む** **る** **骨** **う** **度** **度** の **ー** **う** **ち** **ち** **よ** **つ**

と茶とのむらも茶の湯のふつまでのみ酒
とつとくひ紙入くう琴う紙を出してんせび
うし狗のつひひるひるり放空琴ハ始終
せえまくツツく然としておし終ハ女藝
者二組復来ておふと時うりむさ
なるう放空琴うこのふよりう骨が床の
色男の隣へとさまり皆く返るおる骨ハ
白の床の中よ大あぐら落舞の煙なるも

せ獅子の香煙つる松よ口と鼻うう煙とあ
て飛る 名代 屏風の介あどりのそばよびのうま 新 松
おぬりてく 名 廊下 新 松さん
廊下 名 松さん 新 松さん
松さん 名 首尾の枝 新 松さん 新 松さん
うひるん 名 ナ 新 松さん 新 松さん
名 女 名 風 名 二 名 百 名 方 名 編 名 の 名 ば 名 の 名 念 名 珠 名 と
ね 名 や 名 う 名 の 名 車 名 座 名 よ 名 ち 名 り 名 火 名 鉢 名 と 名 り 名 ま 名 いて

ぞんとぞおてやばハ虎アイト花ひらき月月の戸

二匹の幼虫おるれども新いふるりも体はあつくと見え
とちりなせてお骨牌の駒を志あき優く寛くとちりくれを
とんぞんうめんではる風風萩萩さんさん一一すすくくおおうう一一めめて

ちりやアアいい一一せんせんよよちちややんんととちちちちととまままま
いいよよままいいせんせんももままああのの坊坊ままははおおるるととががいいせんせん

せんぬいでとれぬとつらてやま一一ととここらら

つらてまあ一一せんせんももまま生生かかりり死死かかりりうう

らんでやばツギ風風おおめめああのの坊坊さんさんののああぢぢるる

妻名

とちつて居るせん月一月一月へ風玉玉眼眼入入の炭

風風ととチチンンとと一月ちちせせぬぬくく風風ああじじままう丸

くくそそてて色色ががままくくつつて目ををうう光光りりんんままうう

さ月月月ホホニニととままじじよよああぜぜああぬぬくくはは色色ががままいい

ぬぬくく色色ののままいいううををああららと思つつて居るるままううねねくく

そそららややアアそそららとおままキキちちんん一一せんせんどどの理屈屈

ううままししままええんんせんんヨトととままいいととばば花花モモシシイイ伊伊勢勢

屋屋の内と解文文字字さんさんと神風風ええとおめめええ

とはつ狭輪せうりんであつてさーさうさうさうつらりさよ
 ちのりのでごばんもぬくぬ風かぜけ子この時ときくさつる
 りよと云出いせも子こぶよにッ狭輪せうりんといふハナイ
 へぐはッ狭輪せうりんといふを初はつてササイとト花はな
いふふも廊下らうかにて花はな夜よさんくおおいんぐお出い
笑つて居るらんーッッ花はなああくびと今いまアアと糸いとりん中ちゆうでヨ
 ト立てるたうトをわけるギギツついで早はやモおれッてく
 おびせりおあけうあとするすととううなる障しょう子こぶヨッッ風かぜヨヨツツトト氣きとよよくしてああけを

んーん氣きとつつくああけるとああらわへヨヨ月つきをを行まは
 さんさんとらやアあるんんぞぞ何なにいいこととををおおななげん
 をを月つきををののちちちつつととよよんんででおおせせややああんんーー十
を誰たれががももここうういいつつももよよんんせんせんヨヨトトんんぎぎととぬぬい
て「こわわーーもも一一トト重えいい咲さ花はななるられれどど草くさああさままし
 ハ重えいい咲さクク」こぬぬ死しももせせーー死しぶぶちちらら頼たの
 ままももどどやや海うみののりり色いろととままるるちちといいととんんす
 りぬりどど花はなトトやや若わか木きトトやや散ちぬぬちち」地ひひななよよ

もるからいそいそをりぬとみそはよは日にも
立た風ふうきろい頃おひごろ日のおめと云りんどのあ後ご
でごぎんさあちあ圓まる夜とおよみあんあヨよ書か
「人のうらまさと知ふ」といつてが今をぬく
あつらひぬ「年」と今宵ととり久ほや
ぬく短たん「まゝあらぬ」訓はあひあはるもの
羽は目めをちまひあ次女つぎむすめてうつくじついでい中ちゆうにも
又また飲のむふねばまよしくで目とくらま「い

うげよと口でハ口どぎのいのりや虫の薬

月つきをりやアツのそすりぬく親おやぢせんせんの文ぶんがど

トこれより夜半のうらまはさうりやのまのナメの
すうぬのとをあらとせうしそあらまありを廊下ヲ茶ちやや女によ

てうちんとキクくいそせり
る骨ほねが座ざあへまり風かぜがせううて

うて骨ほね
まごころ察さつもまをひ
おちりくいとそ君きみは

女によ大だい悦えつするが又こちくは出でたれすすくくこせく

夜よでごごりまのト云ね大だい長ちやうト云ハよはどよろ

しきし醫い者しや乃な自みづか息い子こ是これを馬ば虫ちゆうがあ朋とも友ぢゆうと

京町より御座るあめが今宵忍びと見え
か癖積りといふ方へ来りしり響羽
かアリのきまぬ此夜遊みは坊と見え
凡俗^{商下}「ハアかけて来ると姿のすも上
州^り履^り「^紅逸^気く ^{ト云かき}馬^骨子^足下の
得^采如何^不佳^大トコンコト及^サ ^{紅采の二とを}
トコンコト云々^{醫者の傍} ^{ト云かき}「おめをかぜ今時^分
そよく云々^{言あり} ^{ト云かき}「大^ある^情頭^{あり}さ
まこの山の武者取と大^ある^情頭^{あり}さ

とろとろと取^二個^の客^があ^はれ^しりあ^らサ
もつてなまへいれろとつ^り取^が平^氣で
「ヤア^ろつて^調唇^弄話^とま^えて^凝漢^乃
ご^とと^りあ^つり^らと^けい^とま^あの^妓も
々^られ^ゆく^ちど^おれ^も只^顧嘆^息——
あいつ^ア紫^胡湯^の性^ぞぜ^るり^ふな^めの^ど
れ^らう^あめ^はけ^れて^居る^らと^わく^があ^の傾^と
ま^景物^点の^誹諧^とま^る氣^で欲^心こ^まり^り

かつて居ちせふでクーのぬくうち首くびサく

大どよしつてつんても欲ほしく心こころがどよしつていあを

この内の老ろう杉すぎ板いたがまづまきまきロウサンバントス唐

了はつとを 何なにがどよしつてこと大イヤあをこの

内のや假母かりははのるめヨヨウウヤヤりてうウ吉きちぼぼううが

いのとどよしつていあんとりつて思おもふあ

やりてハとひら吊つり及およ鼻びなのと籠かご頭かぶとといふ面おもてどど子こり

トヤアとやあごごせせくくせんせんウウ大大奇き々々妙めう々々ととままるる婦めづ人ひと

おれハおれは腰こしででゆゆくくををりりどどうう張ちやう袖しゆをを揚あげてても

らひてらひて茶ちや屋や女によハイハイちちややううささううききんとんとヤヤスス女によ郎らう

流ながハハごござざりりままままんん大大おおききややアアががれれ振ふ袖そで新あらた造ぞう

のるめヨのるめヨ女によへへエエままくくつつててハハ又また女によ郎らう流ながの

名なううととどどんんドドままーーががここままりりすすーートト立た

了了ててととアアととちちりりんん京きやう町ちやうののおおめめのの傾かたむもも首くび

むむううりりううろろくくろろてて野の志しああのの鞆たもとどど又またちちりりんん

料りやう理り通つうのの言ごひひ大大ううままアアれれ鐘かねのの昆こん布ぷ卷まきササいい

料理通の言ひ

そと朝あんでるると面も愛ごよよ
よくえぬ祥瑞の餌さー 鯨と云面ご
あつがてくく 大せんでげぢぢのぢぢあつと
理論しつ時跳槽のきもとろくごきぬやうら
どよーやうらとまぬぬの中ももきぬー志
アぞひて考えぬバ今きぬちやア黄金を
いもあは似らうらまそふぢーと思ふうち
あつちうらとれてきこころちもとれて志

まろごうモウ殆あひとらうづつき 日光 蠟
石の壘尺ドヤアあるぬーとれるのそれぬの
ととんるらアまのうハ今我の志うちと幸
まきれて志まろて愛の内ではくぬる未練を
ごしなさんま 大時は足下の今我の世
界ハ 三まごなハこぬぐるる 祓子のある
女郎でございけな愛のうちが妙サ 大かひて
佳人女子のきこえあはばあめであうく

三 まつかりつらちぐおてえせやう **大**おそ
 ろしく足下の宰我子貢でハるすぬくの
 さ **三**あしづ名代ハけ也之敷具でおそめら
 ノウ是えぬく夜是ハ錦の色揚ど錦の
 色揚と云ハけ廓よりほうまアあめぬ
 多散如郎の古夜具とこえるコレ枕まア
 引出もぬけは紋とえる令符で石塔へ付
 やうと云はれど **大**妙言く
トワレとらて
居る所へ大收りあつて

ウリ袖言骨が名代の初もありな愛のまてあんどうのうげよ二人
さしむひしちよととれやうよどまアんでぬく
三コウおめよちアちつところちくこぬく **三**ス
 交がようまヨ **三**金魚鉢と暗いどーたやう
 よしめくしういおへをりりさるせ **新**みるんざん
 せと **三**モウりてままる **三**新 一人の新造の
取へ金を毎 わの
 客人ハ **新** まの
つらぐそを ちの巻よめてし、ウ **新** つらぐそを
 ホンニよくひて居まろし **三**ヨ **三**さまろつらぐお
 よしのぬよ似このといがオガよりよでもし

小解しょうげは去さのささ 大收のりやどひは唐の俗語とあること
あきらぬいそおぼくでるはきつりさう
まてむしやうしよくあきらむ音はひらきりの奴音ゆこの
ことむらうなはつらねむきつりこのふらねまけし
まて何のゆいどきま
せむ大ぶいよまひらきし
[る] 漱すすとーよむくのう [大]

しくいも小便せうべんはよくのよ ト云く女茶をくんでる
えて居てらりとのみア

るいの小解しょうげと云茶ぶちまぶ 俗語とつりよ [女] 女まぶよお体

あさぬまうーあまうーこが [大] ちが嘗ちがてせう

ちの幕まく [河東] 河東 学まなよ一トをひタあ辰あとこうり

るいぞう小便せうべんとしくあまてそれより大悦たいえつは寝ねて

あまひ茶ちや屋やの女にもあはしいて飯いる二人ふたりの振ふ新しん
も二階に下界げぞうとあまら又跡あと入いる骨ほね
ひとりまあり将景しょうけいの都みやこづめよあつこやうな
公こうおろてよ母ははと時とき後ごとまうし空琴くうしん
ハあまらまてこうでハあいを月つきぶぐと胸むねの中なか
ハあまの室むろで奉ほう虫むしの巻紙まきしとまはふより
も志しきつしくあまり退屈たいくつあれば保ほ虫むし
のため空くう小便せうべんとされてまてもまは

らぬハ欠^{あひ}こ^はこ^は志^あめ^がら^ば一^は屏^か風^あ
唐^{たう}福^{ふく}と^よむ^むる^るこ^こら^らも^も東^{とう}江^{かう}流^{りゅう}が^あナ^ナ必^{ひつ}

の^のぶ^ぶか^かづ^づら^らや^やら^らの^のら^らさ^さツ^ツサ^サと^と年^{ねん}々^々

長^{ちやう}信^{しん}宮^{みやう}中^{ちゆう}生^{せい}の^のと^と時^{とき}ト

あ^あの^のこ^この^のと^とこ^ころ^ろふ^ふう^うま^まる^るウ^ウの^のと^とト

は^はふ^ふさ^さら^らを^をら^らよ^よめ^めぬ^ぬあ^あの^のあ^あの^のと^とト

ま^まい^い大^{だい}な^なづ^づつ^つひ^ひと^とよ^よし^しと^とよ^よし^しふ^ふく^く

と^と大^{だい}る^る遠^{えん}と^と獨^{どく}淫^{いん}お^おう^うら^ら空^{くう}琴^{きん}

ハ^ハ成^{せい}狂^{きやう}艶^{えん}眼^{がん}光^{かう}粉^{ふん}動^{どう}人^{にん}の^の風^{ふう}俗^{じやく}巧^{かう}

樣^{やう}新^{しん}裁^{さい}比^ひ隨^{ずい}時^{とき}變^{へん}易^い見^{けん}者^{しや}詔^{しよく}

是^し時^{とき}世^{せい}粧^{じやう}べ^べ一^{いっ}體^{たい}茶^{ちや}屋^{えつ}の^の義^ぎ理^りで^で出^でる^る

せ^せり^り出^でる^るの^の奥^{おく}州^{しゆう}と^とる^るや^やう^うか^かり^り振^びを^をこ

一^{いっ}髪^{かみ}の^の色^{しき}の^のみ^みを^をら^らて^て教^{かう}か^かり^り一^{いっ}ま^まで

艶^{えん}さ^さり^り一^{いっ}体^{たい}茶^{ちや}屋^{えつ}の^の義^ぎ理^りで^で出^でる^る

あ^あれ^れバ^バま^まさ^さら^ら捨^{すて}て^ても^もと^とく^くれ^れま^まい^いと^とま^まて

陸^{りく}ふ^ふと^とさ^さら^らり^りと^と解^{かい}る^る骨^{こつ}ハ^ハう^うら^らり^りと

して^{して}飛^とぶ^ぶる^るが^がび^びつ^つり^りと^と烟^{えん}管^{くわん}を^をと^とら^らせ

宿^や衣^ぎとひさう^うる **空^う琴^う** よみて モニへりよ^ね後^ねを

んーと^まく **三** さかが^ね狸^ねつり^い古^こ風^{かぜ}と^おり^つ

ね^さり^とー^さ **三** うく^つ **琴^う** よりい^いく

と^き **三** うつ^つ そこ^らと^ふ れ バ 今 は は い

い^い **三** う の あ さ が ら が 火 入 の 中 は ま ま け

む^む て 飛 ち 也 是 よ て 狸 と よ る あ れ て

い^い ね ど り ぶ と ま る **三** モ ニ へ ね る ん ー と ま く

三 ウ フ ウ ア **琴^う** ハ あ ま り と ま ぬ 也 **三** モ ニ へ ね る ん ー と ま く

こ^こ く モ ウ あ の こ と と く あ の よ **琴^う** の 物

よく^ね 寝 て 飛 ち ん ま ら と こ ー ま り て ハ

え^え ん ー た う あ ん ま ら を ね る ま ら つ り て

糸^{いと} と ら つ て サ ら い 寝 あ ん ー 格 ぶ

ぬ^ぬ ー **三** あ ま り お 出 が 迷 ら せ め て ま ま

よ^よ で も ん 格 と ら つ て サ **琴^う** 何 方 の ま ま

と^と ん あ ん ー の 久 ホ ン ニ **初^{はつ}** ら 代 だ お

と^と の ま ま と ね る あ り お 別 深 の 取 が る

くつてあやうひのあはれお出さんしこの文
 了けり突つてそう云るぞやサいいつつもも法ひ全ぜん
 盛さかと云い相あぶぶくらら志しららせせんんととああつつててるる
 最さい代だいとといいふふ知ちららぬぬののとと是し
 ろろとといいふふ法ひ釋しやく察さつササ 琴今ホニニ人法ひ志し
 いいおお難なん有ありごごううんん也也 ト際わきの方かたをを見みてて知ちるる
 おあがる氣き遠とほとからら我われのの引ひききののととれれたた
 完かんくくののををささららししててささららししてて飛とぶぶ
 とぶとししかか新しん造ぞうるるんんででささんんとといいふふ 色界アア 喜喜き

くらハ大黒だいこく舞まいいののここびびハハいいてて飛とぶぶよよ
 新しんホニニ似てておおままんんままヨヨ 色とといいふふこことといいふふ髪かみのの
 ねねがが上うつつてて飛とぶぶせせ 新靜じやくささかかへへ一いっ氣きがが
 つつままんんままよよ ト人ひといいままととらら る それといいふふ おおお
 ののここいいらら空そら一いっ色しきもも意いちいちああららううがが
 馬ま骨こつ流りゅうハハままんんななめめハハかかままアアおおくく法ひぶぶ
 色いろをを色いろ名なハハ名なぶぶくららららとと大だいままううみみ
 くらくらののササまま上うハハ米こめのの腕うでづづくくままとといいふふ

琴^ウ ホシニそふでござんもぢんぼらうらが懐^ハ
 惚^レして振るが肩^{まけ}ぶといつても合^あもぢぢま
 付^つう擲^{たい}ううまほい懸^か酒^{しゆ}居^いでござん
 此^このサト隣^{りん}の色男^{いろおとこ}あつりい色男^{いろおとこ}のそいで
 夜^よの袖^{そで}でかろい る それとあぢねバ
ひそふ多^{おほ}て飛^とる 我^{われ}身^みまけして こゝろあつりい
ひそふ多^{おほ}て飛^とる
 あやアそんあぢいおくのサワちぢア氣^きま
 くらぬくさあれバよをおろさまはて
 さぢくといふ奴^{やつら}さうやアふでござんは

ちんと川^{かわ}原^{はら}をけいておいらが擲^{たい}を者^{もの}も
 驚^{おど}てえあせく又^{また}さうあ時^{とき}の急^{いそ}よとら
 程^{ほど}廣^{ひろ}い廓^{かた}ぶぐる骨^{ほね}を組^{くみ}との係^{けい}五^ご郎^{らう}
 丸^{まる}うね目^めさじに款^{くわん}いまぢ 琴^ウ
 うちもよそ懐^{なつか}惚^ぼううまがらまがまよ
 さまのねくねりれて飛^とるんまうらそと
 へはほれ取^とがごえせん る かぢりナレバト
おあぢふあどる 徳^{とく}をまぢの 琴^ウ

コホホホホホホホホホホホホホホホホホホホホホホホ
ホホホホホホホホホホホホホホホホホホホホホホホ
速お出あんし之^ニ了^ルりハ金^銭体^押押
橋の大夫^{いよ}が取の替^か古^こ舎^やぶらちらとい
うしやうてま^まくらあくるま^まるつらうとて
さ^むが向^む橋^{はし}の橋^{はし}之^を取^りま^ち川^がと用^うが
てし^らる^るハあ^あホ^ほニ^に中^{ちゆう}田^{でん}屋^やの^の文^{ぶん}記^きも^も可^か毛^{もう}
る^ると^とし^しら^らう^うま^ま我^{わが}花^{はな}屋^やま^ま子^こに^に郎^{らう}関^{かん}

取^とりや^や額^{がく}親^{おや}方^{かた}や^や幼^おお^お郎^{らう}等^{らう}が^が留^{りゅう}申^{しん}の
こ^こや^やい^いせ^せこ^こ人^{ひと}連^{れん}て^て来^きて^て居^いる^るら^ら大^{だい}坂^{さか}
や^や水^{みづ}戸^との^の猪^{いの}肩^{かた}を^を留^{りゅう}め^めが^がら^ら一^{いつ}巻^ま天^{てん}を^を
く^くら^らく^くら^らく^くら^ら草^{くさ}屋^やの^の卒^{そつ}花^{はな}が^が察^{さつ}で
維^いう^うぶ^ぶら^らら^らら^ら中^{ちゆう}河^かの^の村^{むら}田^{でん}の^のお
然^{ぜん}と^と左^{ひだり}達^{たち}サ^サ者^{もの}の^の藝^{げい}者^{もの}を^を大^{だい}勢^{せい}ひ^ひを
つ^つれ^れて^て居^いる^る村^{むら}田^{でん}で^でも^もそ^その^の方^{かた}が^が出^いち
や^やア^ア松^{まつ}山^{さん}ハ^ハ金^{かね}体^{たい}ハ^ハ取^とり^りの^のと^とあ^あれ^れハ

ろろちの生れぶくら一氣やうがり何ら
又例のお態が大酒をいしめろたら
そらとそらくそれくら三朝う取ら
くら土橋の取次が来て居る金鉢や
万や姿見賣梅が来て居て大酒
よ志申れて居る取次がそれを深川
ひいていふと云膳で向きをくら
くらくら気ぶりのを何らくめし

一時土橋の影尾一唐料理と喰
ひよいふとらつて二三人神と連らつて
申小お膳をようかうといふやめがあら
口をうけ取が龜屋の出まをおらつて
アサリ河原まがらつてと云からそれや
とどまらぬと仲町へ引及具ま
梅本とお目よのけ今離れやお
と云世の坊おあつちよびと付込

の梅子うめを帯おびで遊あそぶつのもであつるが花はな
大おほ名の神かみのわらが海うみうせうあでうせ
やアがつる一ひと体たいおいら吉原きちげんで育そだつら
深川ふかがわへゆくとああうがまるヨホニさう
子こ塔たの音ねやのめで佳よ六むあつる
け今時いまときかといいくとりつら代しろ地ちの
甲か子こ小こめりまきとらつるが大方おほほう又また海うみ
溜う璃りぶらう文ぶん魚ぎよか江戸えど節ふしハ黒くろ

りのぶらうそりやアそふと解と町の穀こ
はふぶの俄はなの世せ話わで揚あ弓ゆみもひけめ
久ひさ後ご逢あ逢あぬ黒くろ江えの頃ころ日ひ金かね川がわの別べつ
名なくあもをぬくといつて伝でんをいそま
こーたらけあつハ世よ夜よこさうとあつる
が茶ちやよりぐれさうついでるん今いまアお
も三さん鉢はちが取とりも名な舎しゃがあるといつてよ
びよまたがことさうといつてららちく

三 ていぶらあやめりつてあんと
あやうちあやめりつてあんと **三** あや **三** あや **三** あや **三** あや

お月よかづらん **三** あや **三** あや **三** あや **三** あや

いざ **三** あや **三** あや **三** あや **三** あや

ぬー 魚 街 さん **三** あや **三** あや **三** あや **三** あや

いざ あや **三** あや **三** あや **三** あや **三** あや

いざ あや **三** あや **三** あや **三** あや **三** あや

いざ あや **三** あや **三** あや **三** あや **三** あや

いざ あや **三** あや **三** あや **三** あや **三** あや

さんお あや **三** あや **三** あや **三** あや **三** あや

いざ あや **三** あや **三** あや **三** あや **三** あや

いざ あや **三** あや **三** あや **三** あや **三** あや

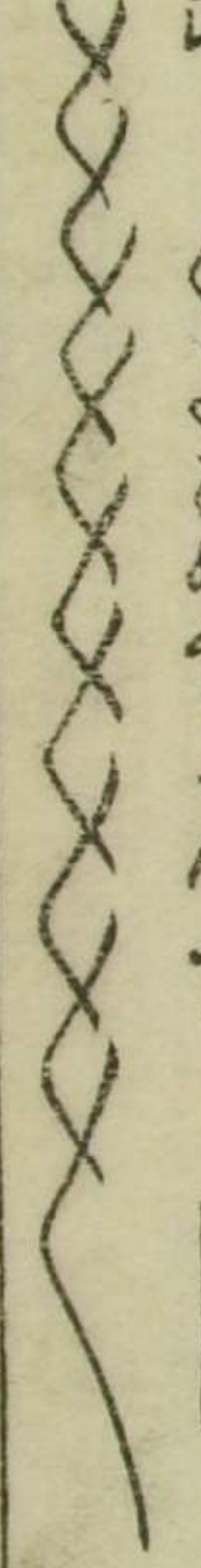
いざ あや **三** あや **三** あや **三** あや **三** あや

いざ あや **三** あや **三** あや **三** あや **三** あや

いざ あや **三** あや **三** あや **三** あや **三** あや

いざ あや **三** あや **三** あや **三** あや **三** あや

いざ あや **三** あや **三** あや **三** あや **三** あや



鳥 アボウ

是これを所謂いふやう未至通こゝろの
徒とを帰かへべ後年ごねん

洞窟どうくつ妓談ぎだん綴ずい糸いと十話じゅうわ畢ひ

馬ま骨こつを何取いづれのところの馬むまの骨ほね
を採とり。馬骨まほねハ一人ひとりの名なを
し〜一人ひとりの名なを〜馬骨まほね
を採とり〜馬骨まほねを採とり〜
馬骨まほねを採とり〜馬骨まほねを採とり

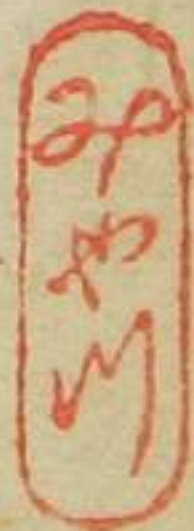
る骨乃名をのぞくべし
志ろいふ

京傳自跋

實政の

成乃事大日

ちり終



115435

1154

